



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会 / 上野 敦子 山口県山口市あじす学童保育事業所 主任指導員
毛利 克裕 福岡県教育庁京築教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 宇宙のまちの「宇宙少年団」活動プログラムによる青少年育成 10:50~11:20

小西 嘉秋(鹿児島県南種子町) 日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団 副分団長
南種子町教育委員会 社会教育課長

分団の日本宇宙少年団への登録は1986年である。現状組織は、小学4年生以上高校生までの65名と指導者11名の構成である。分団の活動目標は「科学する心」、「友情の輪」、「郷土愛」の育成に置き、活動拠点に種子島宇宙センター、南種子町自然の家などを活用し、プログラムは宇宙科学、考古学、郷土の文化財などの学習に加えて、歴史年表の作成、発掘遺跡の出土品をモデルとした製作実習、サマーキャンプなど多岐に渡っている。27年に亘る活動の継続によってJAXAや町教委との連携も確立し、子ども達の役割分担が明確化し、高校生リーダーも育ち、宇宙留学生(山村留学)の参加も見られるようになった。

2 Let's Study, Let's Enjoy in 船上 11:25~11:55
~小中学生を対象とした勉強合宿&野外体験企画を大学生と自然の家が共催実施~

岩成 智彦(鳥取県琴浦町) 船上山少年自然の家 指導係長

当施設では、地元の大学生を対象に、企画力・実践力の向上に向け、主催事業において学生をさまざまなポジションに位置づけてきた。今回の事業は、こうした取り組みの中で島根大学の学生が発案し、絶対実現させたい熱意とそれを受け入れた自然の家との関係の中から生まれた特別プログラムである。内容は、自然体験活動を中心に据えた既存のプログラムではなく、あくまで学力向上の学習プログラム中心であり、その合間に体験活動プログラムをリラックスタイムとして取り入れ、メリハリをつけるという当野外教育施設としては新たな取り組みである。今年度は主催が島根大学であったが、参加者及び保護者から是非継続して欲しいという声を受け、自然の家の主催事業として更なる充実を図る。

3 1週間通しの学社融合「人権」啓発プログラム 12:00~12:30
~「熊本市ふれあい文化センター」が企画する「かけはしウイーク」の集中と選択~

石川 貴博(熊本県熊本市) 熊本市教育委員会 人権教育指導室 指導主事

「かけはし」は「自分」と「他人」、「子ども」と「大人」、「個人」と「社会」、「学校」と「社会教育」、「思想」と「行動」を繋ぐなどさまざまな解釈が可能である。「かけはしウイーク」はセンターが開設した人権啓発プログラムの集中と選択である。人権週間の1週間を通して学校と社会教育の内容・方法を融合させ、各種プログラムの形態を融合させ、児童生徒と地域住民・講座生の交流を同じ学びの場で進めようとした試みである。具体的には、市民対象の啓発講演を柱として、それに中学生・市民を対象としたギタリストの公演、園児・児童・生徒が作成した標語等作品の展示、小学生を対象としたおはなし会、小中学生を対象とした「絵手紙メッセージ」の作成実習、小学生を対象とした音楽療法の紹介などを組み合わせ多様な取り組みを1週間に凝縮した「かけはし」プログラムである。